

1. くやし涙

豊丘村豊丘中学校三年 Y・H

「おばあちや——」

涙が

ほっぺたを

鼻の頭を伝っていく

あの

屋根がこわれどうに雨の降った日

あの時聞いた有線のアナウンサーの声

服のぬれるもかまわず

父の所へ知らせに行った

すべマが夢のようだった

うそぞあつてほしい

アナウンサーのまちがいであつてほしい

どう願ひ続けた私の目に耳に

父のことばは冷たかった。

「死七 H・I (五十六)」

もうあきらめるよりしかたがない

雲の間から出た月が

さみしどうな おばあちやの顔に見える

苦しかったでしやうね
こんなことの犠牲になりたくなかつたでしやうに
こうなることがわかっただら
けっして死なせるようなら
土砂崩れを防ぐことができたら
明るく元気なおぼあぢや
だつたのに

涙が流れる
くやし涙が流れる